

令和2年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特2		学校名		県立水戸聾学校						学校長名				奥岡 智博							
教頭名	平 知己										事務(室)長名				白田 宏保							
教職員数	教諭	52	養護(助)教諭	1	栄養教諭	1	常勤講師	9	非常勤講師	3	実習助手等	6	寄宿舎指導員	16	事務職員	4	技術職員等	3	嘱託	11	計	109
幼児・児童・生徒数	部	1年(3歳児)		2年(4歳児)		3年(5歳児)		4年		5年		6年		合計		合計						
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	幼稚部	1	2	5	4	6	0									12	6			4		
	小学部	4	4	1	1	1	0	4	3	0	1	4	3	14	12			10				
	中学部	3	2	2	3	2	4							7	9			4				
	高等部	4	3	1	3	4	4							9	10			4				
	高等部専攻科	0	1												0	1			1			

2 目指す学校像

○安全・安心であたたかな学校 ○一人一人のよさや可能性を大切に学校 ○互いに学び合い、高め合う学校 ○家庭・地域社会と連携し、信頼される学校

3 現状分析と課題(数量的な分析を含む)

項 目	現 状 分 析	課 題
経営企画	経営企画会を毎週開催し、諸問題に対して組織的に対応するように努めている。今年度新たに教員研修係を設け、若手・中堅教員研修の充実を図ろうとしているD20-AK22。新学習指導要領実施に向けて、学習指導部と連携し各教科会を機能させ、授業研修をサポートしていく。検定試験の賞状や新聞記事等を来客者や保護者の方が目にする場所に一括して掲示し、児童生徒の学習の成果を紹介している。新任者研修を研究部等と連携しながら定期的I開催することにより、学習指導や専門性の向上に努めている。また、社会に開かれた教育課程の1つとして手話普及係と連携し、地域を巻き込んだ手話の普及を図っている。働き方改革に伴う教員の仕事の在り方を継続して考えていく。	初任者の所属する高等部に教員研修係を設けた。初任者指導としては機能したが、2年次3年次の指導には、課題が残る。コロナ禍ということもあり、手話普及係と連携し外部への普及ができなかった。教員の仕事の在り方については各部裁量になってしまった。途中報告を設け、各部の取り組みを共有し、できることから実行していく。
学習指導	各種検定試験及び各種作品展への出品を実施し、学習に対する意欲と自信に繋がるように努めている。実態把握のための諸検査が円滑に実施できるよう、検査器具の管理に努めている。教科会を組織し、教員の指導力向上に努めている。また、魅力ある図書館となるような環境作りや、読書指導の充実を図っている。情報管理規定に基づいた情報機器等の整備と管理、ホームページとブログを通して外部への情報発信、ICT活用の研修と運用を行っている。各部や職員室にある視聴覚機器の円滑な管理運営が実施できるようにする。	各教科会の進め方は様々であるが、教員の指導力向上に向けた取り組みが課題である。夏季休業が短期になったこともあり、児童の読書指導及び作文指導が不十分となった点が課題(中高生は達成)。ブログは11月までに月平均7.6件発信でき、週に約1～2回を継続維持することが課題。いばスタの字幕版提供もでき、コロナ禍の中で役割を果たせた。
生徒指導	児童生徒の様々な状況を、教職員間で共有することで、問題行動の未然防止に努めている。スマートフォンやインターネット等のルールとマナーに関する生徒指導の充実を図っている。アンケートの実施、相談窓口の設置など、いじめの早期発見ができるよう努めている。週の開始日に立哨指導を行うことで、児童生徒が安全で安心な通学ができるように努めている。毎月マナーアップ週間を設定し、各部の目標を掲げ、児童会・生徒会が中心となり、生活習慣の定着を図っている。	部を超えた教職員間の児童生徒の情報共有のために報連相シートを活用したが、普及率がまだまだ低い。生徒指導部主催の職員研修を、内容を含め検討する必要がある。児童生徒が日ごろから気軽に相談できるようなシステムを、支援部等とも協力して作る必要がある。
研 究	自立活動指導力向上研修と関連させ、自立活動における指導力の向上を図っている。外部講師を活用した全体研修や、部単位による計画的な研修、情報保障に関する研修、自立活動研修などにより、職員相互の専門性を高める研修に努めている。自立活動研修は、今年度は、ことば・こころ・情報保障・聴覚障害理解の4グループに分けて実施し、聴覚障害教育の基礎・基本を学べるようにしている。	各部の研修・研究状況の情報交換を行い、学校全体で取り組むという意識を高めてい必要がある。また聴覚障害児教育に関する指導方法などを可視化し継承することも課題である。自立活動研修では担当する教員の負担を考え、グループおよび内容を再検討していく。
進路指導	高等部卒業後の進路として、大学進学希望が増えている。適切な進路決定ができるよう大学についての情報提供や模試の設定を担任と連携して進めている。また、主体的な進路選択ができるよう、職場体験や企業見学、インターンシップの機会を設定し、部ごとに指導を進めている。今後は職業観・勤労観を育成できるよう、各部や学年に応じた計画的な進路学習について考えていく。	進路についての情報は、該当学年や高等部においては提供しているが、他の部や保護者への提供についてもニーズに合わせて行うことができるよう方法等を検討していく。進路に関する行事については、より生徒の実態や進路希望に対応できるよう、対象学年や内容については各部等の意見を取り入れながら進めていく。
保健・安全	学校保健給食委員会(2回/年)では、幼児児童生徒の安全のための方策を多角的な面から確認し、ヘルスケア安全委員会(3回/年、必要に応じて臨時)では、配慮を要する幼児児童生徒の実態を把握し、効果的な支援方法を検討している。避難訓練は、学校(5回/年)、寄宿舎(5回/年)の合計10回を予定し、幼児児童生徒のより安全な災害避難をめざしている。また、学校防災連絡協議会を年1回開催して、防災関係機関との連携づくりをしている。今年度、新型コロナウイルス感染症対策から、健康診断等の予定の変更等、教育活動全般に影響が及んでいるため、学校医をはじめ、各校務分掌との連携を図っていく。	次年度以降も、感染症対策が必要だと考えられる。今年度購入した備品消耗品費の在庫管理をしながら、引き続き対策がとれるよう準備していく。避難訓練では、感染症対策と避難行動の両立が難しかった。今年度から職員の係を固定したことで、様々な想定避難訓練にもスムーズに対応することができたが、マニュアルの見直し、改善をしていく。
渉 外	本部役員は、奉仕作業や文化祭の催しの企画運営や開塾P、高P連等の総会や研修会への参加等、校内と校外の活動を行っている。研修委員会は、講演会または研修会を実施する予定である。広報委員会は、号外と併せて年2回の発行を予定している。後援会は、ホームカミングデーの企画と、卒業生への移行支援を併せて行っている。これらの取組を、保護者と連携を図りながら取り組んでいく。	今年度は感染症対策のため、定期総会が書面での開催となったが、来年度のもち方についてどうするか検討が必要。各種専門員会のもち方についても、感染症対策をした上で、どのような実施方法があるのか検討が必要。
相談支援	通級による指導を受ける児童生徒20名、教育相談を受ける乳幼児児童生徒69名(うち乳幼児41名)の、本人と保護者それぞれの教育的ニーズに応じた支援を継続して行っている。聴覚障害のある乳幼児児童生徒が在籍する園や学校および教育委員会、保健・医療・福祉・労働等関係機関と情報を共有しながら連携を図るとともに、聴覚障害への理解啓発に努めている。	感染症対策に努めながら、保健・医療機関との連携を進めるための具体的な方策を検討する必要がある。聴覚障害教育のセンター的役割を周知するため、現在の方法を工夫・改善する。

4 中期的目標

○ 一人一人の発達段階や教育的ニーズに応じた教育を行うための、指導体制、指導方法、指導内容の工夫や研究及び専門性の向上に努める。 ○ 個々の聴覚を最大限に活かすとともに、適切な情報伝達手段の併用により豊かな日本語を習得することで、言語力やコミュニケーション力の向上を図る。 ○ 将来の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てるための系統性のあるキャリア教育の充実を図る。 ○ 地域や関係機関等のニーズに応じたセンターとしての役割の充実を図るとともに地域社会に貢献する。
--

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
1 安全・安心な学校、寄宿舎づくり	①効果的な避難訓練の工夫と日頃からの防災教育の充実 ②適切なSNSの活用やいじめ防止の取組の推進(人権意識の高揚) ③安全管理の徹底と安全教育の推進 ④各種マニュアルの整備と運用による安全体制の充実 ⑤平時からの危機管理意識の高揚
2 授業力・専門性の向上 (構想力と実践力)	⑥教科等のねらいを踏まえた妥当性のある各教育計画の作成及び活用 ⑦育成を目指す資質・能力の明確化と問題解決的活動を取り入れた単元計画の工夫 ⑧主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善、授業研究の推進 ⑨自立活動に係る指導力の向上(聴覚障害教育の専門性含む) ⑩ICT機器の効果的活用と検証 ⑪多様な障害特性や学び方にあった指導の工夫 ⑫専門家との連携を図った校内研修・校内研究の充実
3 自立と社会参加にむけた教育の推進	⑬各部の系統性をふまえたキャリア発達を促す指導の工夫 ⑭キャリア教育全体計画(一覧表)の見直しと授業との関連性の強化 ⑮職場見学や現場実習等を含めた職業教育の充実 ⑯高等部における魅力ある教育課程や学科等の検討 ⑰各種検定試験等の奨励と実施 ⑱スキルアップ・フューチャーアップ講座やボランティアの活用をとした生活指導の充実(寄宿舎)
4 豊かな心や健やかな体を育む教育の推進	⑲効果的な交流及び共同学習の実施 ⑳個に応じた体力向上にむけた取組の工夫 ㉑養護教諭や栄養教諭と連携した健康教育や食育の推進 ㉒スポーツ・文化・芸術的活動(部活動含む)への積極的な取組 ㉓発達段階や特性等を考慮した心にひびく道德教育の推進
5 センター的機能の充実、地域・関係機関との連携	㉔校内の支援体制やケース会議等に関する指導助言の充実 ㉕早期教育(サテライト)、通級指導教室、巡回教育相談等の充実 ㉖養育及び就学支援、在籍校等への情報提供や指導助言の充実 ㉗HPの充実や学校公開、関係機関や地域への積極的な働きかけによる理解啓発 ㉘PTA、同窓会等と連携した活動の推進